



8月17日に急逝した長谷川員典会長の後任として、9月の理事会で佐藤隆彦氏が新会長に就いた。「今年度も長谷川会長と一緒に取り組みを進められると思っていた矢先に亡くなられショックだった。ただ、そうした中でも全国コンクリート圧送事業団体連合会の事業遂行のため、流れを止めるわけにはいかない」と悲しみを乗り越え、前を見つめる。これからどのように団体運営に当たるのか、佐藤新会長に聞いた。

— 就任の抱負を

「処遇改善や働き方改革などの流れを止めないためにも、今までの事業をしっかりと継続しながら、時代に合わせた運営に努めたい。そして団体設立時からの目的の1つである『コンクリート圧送業の社会的地位向上』を果たすため全力を尽くす」

— 現在の事業環境は

「会員へのアンケートの結果

新 会 長 Interview

社会的地位の向上に全力

果、2019年度の平均売上高1億9500万円は、20年度に1億6400万円と300万円以上減った。新規の仕事量が減少し始めているこ

体の確保に向けた環境づくりを進めたい」
「その一方で、特に首都圏で朝8時の現場に間に合わせるには、朝6時前に出て機械を運ばなければならない早出・遅帰りの課題を抱えている。最終的に上限が月45時間の残業を目指しているが、そこに収まりきれないという声も上がっている。残業時間の特例措置や緩和措置を要望で

とが原因だと思う。環境は悪い方向に変化しており、会員企業の課題を注視しながら団体運営に当たりたい」

— 働き方改革への対応

は
「最近では土曜閉所の動きもあって、大都市部で4週6休をほぼ確保できるようになってきた。若い就業者を増やすには、休日をしっかり確保できる環境が必要だ。4週8

きないかも含めて、同じ課題を抱えるクレーン業界を参考にしながら連携して対応を進めたい」

— 処遇改善の動きは

「現場で働く人の処遇改善に向けて現在、建設キャリアアップシステム(CCUS)への加入を積極的に進めている。現在の加入率は事業者で74%程度、技能者単位でも62%と高い。処遇改善の原資と

なる受注単価をしっかりと上げていきながら、技能者の単価を上げてCCUSを普及させることが、好循環のベースとなる。標準単価については、地方と都市部で編成人数が違い価格体系にもバラツキがあるが、これを進めようとする建設産業専門団体連合会の考え方に賛同しているので、全圧連としてどう対応するか協議していく」

— 新たな取り組みの考え

えは
「若者に入職してもらっためには、働き方改革や処遇改善に加えて社会的地位を向上させ、世間一般に圧送という仕事を理解してもらう必要がある。その一環でブランディングを強化し、情報発信していくためのワーキンググループを立ち上げたい。圧送も無関係ではない、SDGs(持

記者の目

コンクリート圧送業界の将来に対する熱い思い、そして業界の地位向上を実現したいという実直さが、言葉の節々から伝わってくる。座右の銘の1つが『共生共創』。佐藤新会長と同様、業界では次々と2代目社長が誕生している。父親で前々会長の佐藤勝彦氏、そして前会長の故・長谷川氏が業界発展のため奔走したように、佐藤新会長も2代目となった同志たちと共に生き共に良い業界を創り上げようとする光景が目に見え、

(たかひこ) 1987年3月東北大学経済学部卒業後、同年4月清水建設入社。95年ヤマコン入社、99年常務、2003年専務、05年に現在の社長に就任。全圧連では15年副会長兼経営委員長を経て、ことし9月会長就任。趣味はゴルフ。山形県出身、57歳。